

## 沖縄県トップセールス in シンガポール ～連続チャーター便開設から定期便化実現を目指す～

シンガポール事務所

沖縄県は、2014年9月10日から12日にかけて、シンガポールにおいて「沖縄県トップセールス in シンガポール」を実施しました。

シンガポール事務所では、9月10日に中心部のホテルで行われた記者会見や Okinawa Night in Singapore を取材しました。

### 1 経緯と目的

沖縄県は2014年3月にシンガポールのチャンギ空港グループと相互連携協定を締結し、国際航空路線の拡充に取り組んできました。その結果、5月から週6便の国際航空貨物便の定期運行が始まったほか、9月9日から年始にかけては、シンガポール航空子会社のシルクエアー（日本初就航）が往復14本のチャーター便、ジェットスター・アジア（沖縄初就航）が往復2本のチャーター便を運航することになりました。



チャーター第1便が到着（9月9日）

これを受けて、沖縄とシンガポールの更なる経済交流の拡大に向けて、川上好久沖縄県副知事（当時）を団長とする県内の経済団体や観光関係者ら64人の経済ミッション団がチャーター便第1便に搭乗してトップセールスを実施しました。

### 2 記者会見で直航チャーター便開設をPR

竹内春久在シンガポール日本国特命全権大使ご臨席のもと、川上副知事、チャンギ空港グループのリム上級副社長、シルクエアーのハン市場計画アナリスト、ジェットスターのロイ商務部長代理による共同記者会見が行われました。

川上副知事は「（沖縄県で）この数年間に開設されたチャーター便は、半年から1年で定期便化されている」と指摘し、シンガポール便についても、早い段階での定期便化実現に期待を示しました。また、定期便化を視野に入れたチャーター便を初めて運航するシルクエアーからは「第1便はシンガポール行きが満席、日本行きがほぼ満席」との報告があり、ジェットスターからは「市場の反応を見て定期便化につなげたい。長期的には楽観視している」との発言がありました。

さらに川上副知事は、沖縄県シンガポール事務所設置の可能性について「必要性は非常に高い」と強調した上で、沖縄観光の良いイメージを物産展開に有効活用している県香港事務所の成功例を挙げながら「事務所設置は観光と物産をセットで売り出すのに効果的だと思う」

と述べ、東南アジアのハブであるシンガポールからマレーシア等周辺各国の市場まで狙う意気込みを示しました。

会場にはシンガポールの有力紙ストレーツタイムズ等現地メディア 20 社から 25 人が参加し、翌日の現地新聞にはさっそく会見内容が報道されました。

会見後には、シンガポールの投資家を対象にした沖縄観光投資セミナーも開催され、投資先としての沖縄の魅力も PR されました。



記者会見の様子



記者会見後の記念撮影

### 3 沖縄一色の熱気に包まれた Okinawa Night in Singapore

同日夜には、Okinawa Night in Singapore と題したビジネス交流会が開催され、沖縄からの参加者 64 人に対し、シンガポールからは地元経済界や政府機関等から 133 人が集まり、沖縄経済への関心の高さがうかがえました。

沖縄の自然・文化の魅力を紹介する映像をはじめ、琉球舞踊や沖縄発祥である空手の演武等の各種プログラムが用意され、来場したシンガポールの政府関係者は「青い海や空だけでなく、食を含めた豊かな文化も有している沖縄のポテンシャルは高い」と話し、用意された沖縄のお菓子やオリオンビールなどを味わっていました。

今後の交流発展を祈念して行われた「泡盛エンゲージメント」では、沖縄とシンガポールの関係者各 10 人が 2 人ずつ双方ペアとなってオリジナル記念壺に泡盛を注ぎ、川上副知事からチャンギ空港グループのウォン上級顧問に贈られました。

最後には参加者が一体となったカチャーシー（沖縄で祝い事の最後に踊られる）もあり、会場は沖縄一色の熱気に包まれました。



会場には約 200 人が集まった



AWAMORI ENGAGEMENT

#### 4 おわりに

近年の沖縄観光は極めて好調に推移しており、2013年度の入域観光客数は658万人、そのうち外国人観光客数は63万人と、いずれも過去最高を更新しました。現在、沖縄県では2021年度までに入域観光客数1,000万人、うち外国人観光客数を200万人とする目標を掲げ、アジア・ヨーロッパ・ロシア・北米・オーストラリアなど、世界各地で「Be. Okinawa」をキーコピーに沖縄観光ブランディングに取り組んでいます。

外国人観光客のうち、東南アジアからの観光客は現在わずか4%ですが、約25,000人と前年の3倍近くに急増しており、沖縄県は今回の連続チャーター便を足がかりに那覇-シンガポール間の定期直航便就航を実現させ、シンガポールのみならず、周辺のタイ、マレーシア、インドネシアなどから人、物の流れを作り、東南アジアと沖縄県の経済交流の拡大につなげたいとしています。

これまでも、北京、台中、釜山等の航空路線をチャーター便から定期便化してきた沖縄県が、チャンギ空港グループとの相互連携協定を活用しながら、今後どのように定期便化実現へのプロモーションを展開していくのか、我々シンガポール事務所も注目していきたいと思えます。



沖縄県の海外向けキーコピー「Be. Okinawa」



シンガポールの MRT 駅構内での広告

(与那嶺所長補佐 沖縄県派遣)